

TOPICS

一般社団法人横浜市電設協会の令和2年新春賀詞交換会

挨拶を述べる菊地憲幸理事長



一般社団法人横浜市電設協会（菊地憲幸理事長）は、1月20日、ロイヤルホールヨコハマにおいて令和2年新春賀詞交換会を行った。出席者は226名。

菊地憲幸理事長は挨拶のなかで次のように述べた。「建設業界は、人手不足が深刻なうえに、就業する人たちの1/3以上が55歳以上といった高齢化が進み、さらに若者の入職者も極端に少なくなっています。今の若者は、休みが多く、残業がなく、給料が高い仕事に就く傾向があります。業界が現状のまま推移すると、労働量不足によって、さらに長時間労働が増え、建設業は若者から敬遠されてしまい、負のスパイラルに陥ってしまうかもしれません。

今後30年間にわたり、横浜市には小・中学校や市営住宅の建て替えといったさまざまな多くの需要があるにもかかわらず、担い手不足によって、工事を受注できない、あるいは最低限行わなければならない災害対策工事、経年劣化による建物や設備の改修・修繕工事すら、できなくなってしまうかもしれません。

そのような状況に至らないようにするためには、大幅な施工時期の平準化が必要であると考えています。具体的には、繁忙期に入る前の毎年12月までに入札、開札を行っていただき、施工業者を決め、1月から3月を猶予期間として4月に工事を着工することで、年度末に集中している工期を少しでも前倒ししていただくとともに、労働力不足の観点から工期そのものを短縮し、その工期で果たして十分なのか、再度、精査し

ていただくことで、施工時期の平準化が少しでも進むと捉えています。そうすることによって、4月から6月までの閑散期における労働生産性の向上などが期待でき、また1月から3月までの繁忙期が少しでも解消されるようになれば、長時間労働の是正にもつながります。

昨年を振り返ると、一昨年に続き、災害が多い1年だったと思います。被災された方々にはお見舞いを申し上げます。また、一日も早い復旧、復興を心よりお祈り申し上げます。今年2020年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催される年であり、日産スタジアムではサッカー、横浜スタジアムではソフトボールと野球が行われますが、昨年のラグビーワールドカップに続いて、大きな熱狂と感動が沸き起こると思います。

昨年5月に元号が平成から令和に変わりましたが、外務省は外国の政府に説明する際に元号・令和の趣旨を『Beautiful Harmony』、つまり『美しい調和』と説明しています。横浜の各建設関係団体と各企業それぞれがワンチームとなって結束し、それぞれの団体と企業が美しい調和を奏でながら、この令和2年をまい進したいと思っております。」

菊地理事長が挨拶を終えた後、来賓各者から祝辞が述べられ、山口宏・一般社団法人神奈川県電業協会会長が乾杯の音頭を取り、懇談に入った。